

Flapless surgery for patient comfort

吉永 修

インプラント治療の応用により、患者の食生活が改善され満足のものとなってきた。しかし、わたしの診療室において、インプラント治療の有用性を理解し、コスト的にも納得しているにもかかわらず、疼痛の恐怖のためにインプラント治療を受け入れない患者がいる。また、一度インプラント治療を行い、そのすばらしさを体験している患者の中にも、他の部位の再治療をおこなうとき、経験した疼痛のためにインプラント治療を拒む患者もいる。

いくらい治療法であっても、患者に受け入れてもらえなければ意味を成さない。そこで、疼痛の原因はフラップを開けることによる反応性の炎症であるため、フラップレス サージェリーを応用することにより、疼痛を軽減させることができるのではないかと 2 年前より試みている。

そこで重要となってくるのが適応症の選択である。トップダウントリートメントをおこなうとき、考えなければならない要因として、機能回復・審美・メンテナンス（力のコントロール、炎症のコントロール）があげられる。これらのことがフラップレス サージェリーで満たすことができるかということである。そのための診査として、口腔内診査・X-Ray 診査・診断用ワックスアップ・CT 診査が必要不可欠となる。これらの診査により正確な診断をおこない、適応症を選択しなければならない。

また、抜歯後の治癒過程で歯槽骨の形態がどのように変化していくか、ということが重要である。プランニングを誤ると歯槽骨が吸収し、必要ない手術をおこなわなければならないからである。

正確な診断による適応症の選択と正しいプランニングにより、フラップレス サージェリーをおこなうことで、疼痛を軽減させ、治療期間を短縮させることができ、患者の満足が得られたので報告する。